

地方芸術の展開をもとめて 一 国境の島「対馬」における芸術の国際的展望と教育効果の考察一

報告：伊東敏光

研究代表者：芸術学部教授 伊東敏光
研究分担者：芸術学部准教授 チャールズ・ウォーゼン
研究協力者：非常勤助教 七瀬綾乃／芸術学部実習補助員 丸橋光生／協力研究員 黒田大祐／非常勤助教 鹿田義彦／協力研究員 入江早耶／博士後期課程 呉青峰／博士後期課程 オマル・ロサレス／博士後期課程 友定睦／博士後期課程 園田昂史／博士前期課程 尾身大輔／博士前期課程 筒井藍／博士前期課程 山本佳織／博士前期課程 粕谷優

本研究は、対馬市が平成 23 年度から継続して進める文化芸術事業<対馬アートファンタジアプロジェクト>と連携し、今日の世界社会における芸術の意味や役割をアーティスト・イン・レジデンスや展覧会、ワークショップ等の実践的取り組みを通して考察するものである。この取り組みは平成 23 年度から継続しており、23 年度に行った関連研究（本学特定研究「対馬芸術プロジェクトの実施—東アジアにおける文化交流モデルの形成を目指して—」）の研究成果を基に、平成 25 年、26 年の 2 カ年に渡って研究を行った。

本研究の舞台である対馬は、古代より中国大陸、朝鮮半島と日本列島との交流拠点として重要な役割を果たし、国境地域ならではのグローバルな視点と文化を育てて来た。本研究は、このような国際感覚と独自の文化が共存する対馬において、多様化の進む現代社会における新しい芸術表現を、レジデンスでの滞在制作を主とした芸術活動を通して見出す事を目的としている。

研究は平成 25 年、26 年の 2 カ年を区切りとし、研究全体を通して朝鮮、中国などの近隣諸国との文化交流の歴史的な背景について対馬市や対馬歴史民俗資料館等と連携して考察を進め、東アジアの文化交流において対馬が果たして来た役割を残された多くの文化遺産を基に考察した。そして、対馬が持つ東アジアの文化交流における歴史的な役割を再考し、現代における対馬での芸術活動の意味と目的について研究グループと地元の実行委員会とで話し合い、レジデンス、ワークショップ、講演会、展覧会について具体的な内容を決定し実行して行った。

平成 25 年度は対馬市峰町木坂地区にレジデンスを設け活動を開始した。この木坂地区は地区全体（全戸）が対馬国の一宮として信仰を集めて来た海神社の氏子であり、レジデンスは、地元における郷土史研究の第一人者永留久恵氏の旧宅をお借りした。活動はレジデンスの改修整備からはじめ、滞在制作を行いながら地元の方々や「対馬アートファンタジア」実行委員の方々より対馬と木坂地区にまつわる様々な歴史等について教示いただきながら研究を進めた。展覧会は峰町木坂地区の永留久恵旧宅、藻小屋、木坂御前浜緑地。対馬市の中心地厳原町の半井桃水館、有明荘に加え町内の商店等を会場として行った。ワークショップは子供達

を対象に計 4 回開催した。

平成 26 年度は、レジデンスを厳原町の旅館であった有明荘に移し、有明荘の一階をギャラリーに改装しながら、リサーチと滞在制作を行った。展覧会は有明荘、対馬歴史民俗資料館、半井桃水館、西山寺、元飯東みやげ品店等、市の中心部に会場を集中して行い、計 5 回のワークショップを開催した。

この 2 カ年の研究により、対馬には、地理的条件からなる様々な文化の混淆と時代背景が生んだグローバルな国際感覚があり、また同時に文化人類学的な研究の対象にもなっている独特の地域の伝承や慣習と、これを支える人的なネットワークがあり、それらが重なり合い、「対馬文化」とでもいうべき独特の文化的状況をつくりだしていることが明らかになった。そして本研究によって社会のグローバル化と共に国や地域の独自性や特色を失いつつある現代芸術に対し、地域のローカルな歴史、風土、文化を背景にした作品制作のあり方に一つの方向性を示すことの出来る作品群が誕生した。

芸術学部、芸術学研究科における教育的見地からも、地域の歴史、風土、暮らし等の文化的背景をリサーチし、それを美術家としての立ち位置から理解し視覚芸術として表現することは、地域社会に内在する様々な価値観や美意識を作品化することとなり、現代性を持った独創的で多様な作品を生み出すことにつながる。また、その過程で市民や行政等の学外社会との関係が不可欠となるため、美術家として仕事をして行くことの社会的意味やその方法について考える機会となる。本研究に参加した学生達は、自身の制作だけでなく展覧会の企画・運営に関わることで、美術を取り巻く社会の状況や考え方について実践的に学んだことと思う。そのことは学生達の意識の変化と作品内容に成果として現れている。

展覧会記録

「対馬アートファンタジア 2013」

会期：2013 年 10 月 5 日（土）～ 11 月 24 日（土）

会場：半井桃水館、有明荘、木坂御前浜緑地、藻小屋、永留家旧宅、対馬市上対馬総合センター 他

主催：対馬市

協賛：公益財団法人泉美術館、ママ基金

参加学生：6 人

協力研究員 黒田大祐／博士後期課程 呉青峰／博士後期課程 オマル・ロサレス／博士前期課程 友定睦／博士前期課程 園田昂史／芸術学部 2 年 金田恭誠／芸術学部 1 年 梁谷侑未

2013 作品制作・展示



図1. 伊東敏光《山水破船》頁岩 400 × 150 × 210cm



図2. チャールズ・ウォーゼン《Venus by the Sea》木 110 × 62 × 53cm



図3. 七瀬綾乃《眠るヤマツミ》対馬檜、樹皮（檜、楠、杉）
145 × 407 × 26、158 × 400 × 26cm



図4 丸橋光生《The Ships》鉄、塗料 160 × 220 × 440cm



図5. 鹿田義彦《粒雪図》写真 サイズ可変



図6. 入江早耶《今日という夢よりハギトウジンの潮流を眺める》
衣服 サイズ可変



図7. 黒田大祐《ツシマオオトラヤマネコについて》
鯨の骨、絵馬他 サイズ可変

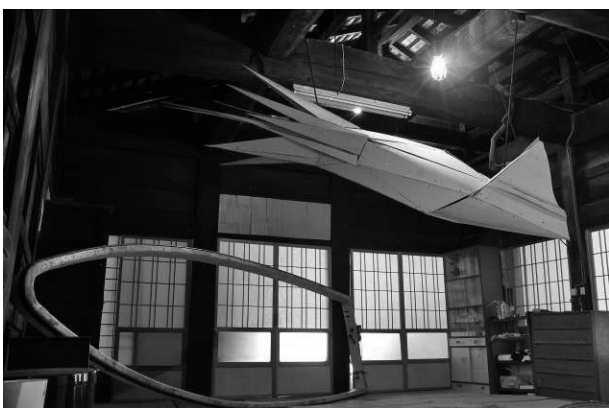


図8. 友定睦《舟の夢》ボート 300×100×100cm



図9. オマル・ロサレス《人工的反射》風船 サイズ可変

ゲスト作家：計7名

イ・カヨン（韓国）、キム・ボギョン（韓国）、ジョン・マンヨン（韓国）、ソン・ソンジン（韓国）、南雲由子（日本）、リンダ・ハーヴェンシュタイン（ドイツ）、ワン・ドッキョン（韓国）

ワークショップ

①「漂着物や木の枝で幻の生き物を作ろう！」

日時：2013年8月12日（月） 会場：親愛児童館

本研究の研究者が講師となり、子供たちと漂着物や会場付近で拾った枝や木の実などを使い、その形を活かしながら組み合わせて、ツシマヤマネコにちなみ「幻の生き物」を作った。作品は対馬島内の銀行のショーウィンドウで展示し、作品のいくつかは海を渡り韓国の釜山でも展示された。



図10. ワークショップの様子



図11. ワークショップの様子

②「似顔絵キャラバン

3D スキャンと 3D プリンターによる立体似顔絵制作

日時：2013年9月15日（日）～17日（火）

会場：上対馬総合センター、旧永留邸、対馬市交流センター

対馬の北部、中央部、南部の各地域で行った、似顔絵と3Dプリンターの技術を使ったワークショップ。



図 12. ワークショップの様子



図 13. ワークショップの様子



図 14. ワークショップの様子

「対馬アートファンタジア 2014」

会期：2014年9月27日(土)～11月3日(月・祝)

会場：半井桃水館、有明荘、対馬歴史民俗資料館、西山寺、旧飯東みやげ品店、旧青柳邸、漁火公園 他

助成：公益財団法人朝日新聞文化財団、公益財団法人泉美術館、公益財団法人日韓文化交流基金、公益財団法人野村財団、公益財団法人福武財団、釜山市、釜山文化財団、ママ基金

参加学生：15人

博士後期課程 友定 睦／博士後期課程 園田昂史／
 博士前期課程 尾身大輔／博士前期課程 粕谷 優／
 博士前期課程 筒井 藍／博士前期課程 山本佳織／
 博士前期課程 中島晴子／芸術学部4年 河田百代／
 芸術学部4年 中村明日香／芸術学部3年 遠藤優斗／
 芸術学部3年 高 瑞雪／芸術学部3年 西村七海／
 芸術学部1年 仲島夏聖／芸術学部1年 山崎稚子／
 芸術学部1年 原田季弥

2014 作品制作・展示

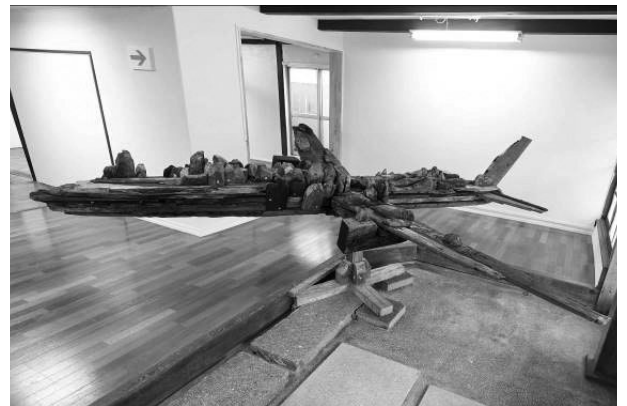


図 15 伊東敏光《飛行景—廃船の夢—》 廃船（木造船）
390 × 400 × 140 cm



図 16 丸橋光生《The Ships》 鉄、塗料
160 × 220 × 440cm



図 17. 七瀬綾乃《杯景》陶器、ガラス サイズ可変



図 18. 黒田大祐《つしまにいないもの 移動動物園》
発泡樹脂、フェイクファー 200 × 80 × 250cm



図 19. 鹿田義彦《タイム・アフター・タイム》
写真、木 サイズ可変



図 20. 入江早耶《ツシマ草子》
消しゴムのカス サイズ可変

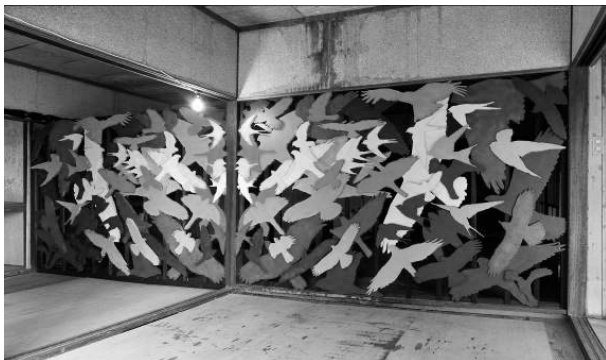


図 21. 友定睦《Trip Assembly》
硬質スチロール 175 × 591 × 6cm



図 22. 園田昂史《対馬で想像する》
映像、水彩、紙 サイズ可変

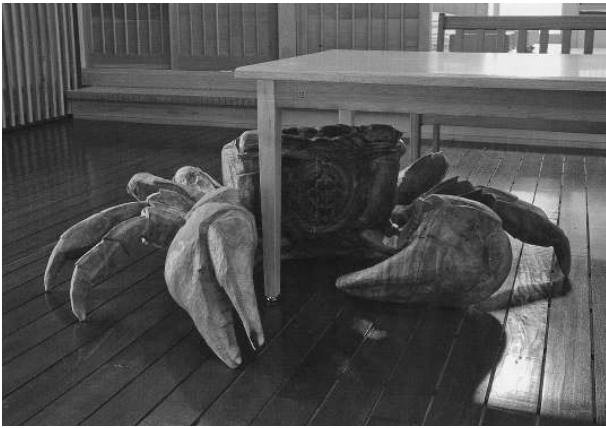


図 23. 尾身大輔《晴天の霹靂》桶 60 × 200 × 100cm



図 24. 山本佳織《夏の思い出》
ピアノ線、鉄 300 × 300 × 300cm



図 25. 粕谷優《さかのぼる船》
紙（対馬歴史民族資料館パンフレット） 10 × 45 × 45cm



図 26. 筒井藍《わたり、あるき》 ミクストメディア
170 × 800 × 1cm

ゲスト作家：計 13 名

イ・カヨン（韓国）、イ・チャンジン（韓国）、加藤翼（日本）、加茂昂（日本）、Ghani（日本）、キム・ボギョン（韓国）、ジョン・マンヨン（韓国）、ソ・ジョンウ（韓国）、ソン・ソンジン（韓国）、ソン・モンジュ（韓国）、ビュン・ゼギョ（韓国）、山本紉（日本）、ワン・ドッキョン（韓国）

ワークショップ

①「思い出の絵巻物日記」

日時：2014年8月17日(日) 会場：対馬市交流センター

夏休みの思い出を絵巻物として制作したワークショップ。絵巻物がどういったものか学び、その形式に沿って子供たちの思い出の1日を長い紙に描きました。完成した作品は島内の銀行のショーウィンドウで展示されました。



図 27. ワークショップの様子

②「初めての彫刻教室 粘土による時刻像の制作」

日時：2014年8月20日(水)～22日(金)

会場：対馬市交流センター

3日間の日程で自刻像を制作する、大人を対象としたワークショップ。骨組みとなる心棒をつくることから始め、水粘土で実寸大の首像を制作し、彫刻の基礎を学びました。



図 29. ワークショップの様子



図 28. ワークショップの様子



図 30. ワークショップの様子

研究を終えて

本研究グループの学生と教員は、平成25年の夏から26年秋の間に期間こそ違え全員が対馬のレジデンス施設での生活を経験した。そして作品制作を前提とした現地調査を行い、実制作をし、ワークショップや展覧会を開催した。その実体験は本研究参加者各々に歴史観や世界観に対する意識の変化をもたらした。

現代の対馬の人々は東京を中心とした中央の価値観に翻弄されながらも、自分達の歴史や信仰に対して独自の視点を持って生きている。また、対馬に残された多くの渡来仏や古文書等は、私達の文化が古代から綿々と続く人々の移動と交流によって形成されたものであることを実感させてくれる。それを象徴するものの一つが下図(図.31)の「逆さ日本地図」である。この地図を見る限り日本は朝鮮半島やサハラとつながる弓型の半島のようにあり、日本海は内海のように見える。中国、朝鮮からの文化が対馬を経由して日本へと伝わった経緯や、対馬が東アジアの交流拠点であった理由もこの地図を見れば誰もが自然に理解できる。

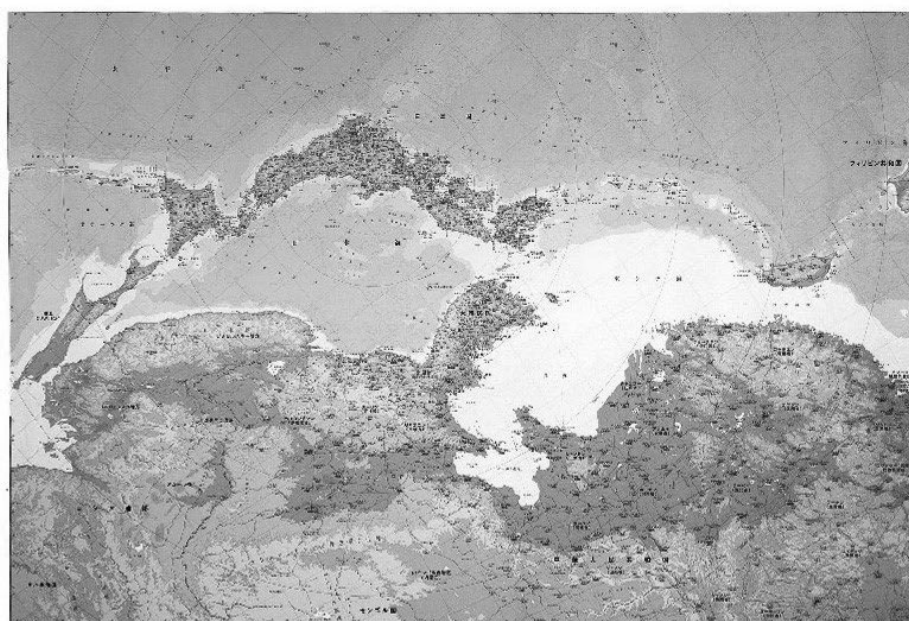
しかし現在の対馬は、底の見えない人口減少(1970年:約6万人弱→2015年:3万人強)に直面し、対馬特有の伝承や慣習も人口の減少と共に失われつつある。

現代における芸術の存在意義の一つとして、芸術家の活動と作品が見慣れた世界に新たな視点を生み、作品によって画一的になりがちな社会の価値観が見直されるということがある。本研究に

参加した美術家それぞれは、対馬の歴史と現在の現実から多くを学び、その視覚化・造形化に取り組んだ。そこから生まれた作品群は、地方における芸術の展開とそのための方法論を示すものである。

本研究の内容と成果は、本報告書以外に以下書籍及びWEBサイトにて公表している。

- ・『対馬アートファンタジア2011-2013』(対馬アートファンタジア実行委員会-交隣社内、2014年10月1日)、103ページ、監修:伊東敏光、執筆:山本豊津、藤井匡、江崎マサ子、黒田大祐、鹿田義彦。
- ・『TUSHIMA ART FANTASIA 広島-対馬』(公益財団法人泉美術館、2015年4月24日)60ページ、執筆:金田晋、編集:齋田茜(泉美術館)
- ・対馬アートファンタジア公式WEBサイト
<http://artfantasia.asia>



環日本海・東アジア諸国図
この地図は、富山県が作成した地図の一部を転載したものである。
(平24情使第238号)

図31. 逆さ日本地図